

- Bite Free -

犬の噛み付き防止



1) どうして犬は噛むのか？

殆どの犬は、人間にとって安全で信頼できる仲間です。しかし、もし脅かされたり、怒っていたり、そして不安になっている場合や傷ついている時は、**たとえ友達のように仲が良かった犬でも噛み付くことがあります。**

犬によっては攻撃性をもつよう訓練されている場合もあるため、それが獲物を追いかけるという本能によって、動き回る子供を襲ってしまう原因になることもあります。

2) 犬は、物や場所、そして人々を守ります！

人がそうであるように、**犬も、物や自分達にとって大切なものを守ろうとします。**それは、フードであり、仔犬であり、またお気に入りのオモチャという事もあります。もちろん自分の場所や飼い主も守ろうとします。食べる場所、眠る場所、庭、ポーチ、そして駐車している車も皆全て、犬が守ってくれる事が多いのです。よその子供が不注意にフェンスやドアに近づけば、いつもは優しく忠実な犬も唸り、攻撃的なプロテクターへと変わります。

犬というのは私達を保護してくれます。**子供達にはその点をよく説明し、犬がどのようなときに脅えたり怒るのか、その状況について確実に理解させておく事が必要です。**

3) 犬が噛み付くその他の理由！

曲がり角を歩く、人ごみを歩く、あるいは長い間立ち続けている犬は、特に小型犬の場合、**防衛的**になっています。**子供は、まず犬から離れて後ろへ下がり、絶対に顔を犬の口に近づけてはいけません。**非常に重症な噛み付き事故が起きる部位は、顔が最も多いのです。

迷い犬もやはり危険な場合があります。繋がれずに離れて歩いている犬は、道に迷っていたり、脅えていたり、また怪我をしている可能性があり、噛み付く危険があります。

病気の犬や怪我をしている犬も、痛みや不快感のために不安になり、あるいはイライラしているため、子供を近づけてはいけません。

高齢の犬も、視力が低下し、耳も遠くなっているため、体に触られる事に対してより敏感になり、ちょっとした事でも驚かせてしまうことがあります。

中には、十分に社会化されていない犬もいます。家族に子供がいる、あるいは周囲に子供が多い場所で生活する犬は、多少のラフな扱いには、噛み付かずに耐えられること

が必要です。**仔犬を選ぶ時はよく注意し、また将来問題が発生しないように、仔犬に噛み付く遊びをさせないようにします。**

犬が噛んで子供に怪我をさせてしまう場合、その大半は子供がよく知っている犬と遊んでいる最中に発生しています。犬は興奮したり、あるいは神経質になると、誤って噛んでしまう事が 있습니다。**子供には、犬と遊ぶ時は決して犬を脅したり、からかったり、大声をあげたり、あるいは追いかけたりしないよう教えるべきです。**

犬は、新しく赤ん坊や別の犬が家族に加わると、自分だけ取り残されたように感じる事が 있습니다。このような場合には、その犬に特別注意を払い、愛情をかけてあげましょう。

<飼い主の責任>

法律では、犬が噛み付いた場合は飼い主に責任があります。以下のポイントをよく注意する事で、犬が噛み付く状況を減らす事ができます。

- ・・・犬を社会化させトレーニングします。始めるのに一番良いのは、仔犬の時からですが、多くの犬は攻撃的にならないよう社会化することができます。

- ・・・犬を野放しにしない事。フェンスで仕切ったランを設け、散歩に連れて行くときはリードにつなぐ事。子供は犬をコントロールできないので、散歩をさせない。

犬の散歩中に子供がいたら、犬に対して適切な方法で近づいているか確認する事。これは子供の安全だけでなく、あなたの犬を守ることににも繋がります。

子供達には、犬の行動から安全かを見分け、注意できる簡単なルールを教える。特に、からかう、追いかける、大声をあげるなどは止めさせるべきです。あなたの犬は我慢できるかもしれませんが、そうでない場合もあります。

犬を選ぶ時は慎重に。親犬の行動からも仔犬を評価すべきです。非攻撃的な犬の家系で繁殖された犬を選びましょう。

あなたの犬には是非とも、避妊/去勢手術をして下さい。こうした中性化手術は、犬の攻撃傾向をかなり減らす可能性があります。アメリカでの調査では、犬に噛まれ致命的な傷害事件となった200件のうち、2件を除いて全て、未去勢・未避妊の犬で起こったものでした。

犬と赤ん坊または小さな子供だけにしない事。子供には、決して犬をきつく抱きしめないように教える事が必要です。多くの犬はこのような行動を我慢しますが、そうでない犬もいます。

このペーパーはBC SPCAにより作成されたプログラムをペット・ベットの事務局が翻訳し、一部日本の実情に合わせて改題し、作成しております。

このペーパーは下記当院のインターネットホームページで24時間無料で取り出せます。また、ホームページには他にも様々な情報が掲載しておりますので、ぜひご覧ください。



Copyright (C) 2001 Tatsuya Fukuyama DVM, AFP IKI ISLAND VETERINARY CLINIC.

Tel 0920-47-6767 Fax 0920-47-0350 e-mail: foffice@bronze.ocn.ne.jp

<http://www.ikikoku.com/pet.html>